保幼小連携・接続

交流活動事例集

令和３年２月

高知県教育委員会　幼保支援課

交 流 活 動 事 例 一 覧 ～

○　交流を行うにあたって

【１】里帰り交流（幼児と児童：年長児と１年生）

【２】プール交流（幼児と児童：年長児と５年生）

【３】秋祭り（幼児と児童：年長児と１・２年生）

【４】保小合同芋ほり（幼児と児童：年長児と１年生）

【５】秋祭りの遊びを楽しもう（幼児と児童：年長児と１年生）

【６】おもちゃまつり～ふれあい交流～（幼児と児童：年長児と１年生）

【７】お祭り集会（幼児と児童：１～５歳児と小学校全児童）

【８】お店屋さんにしょうたいしよう

（幼児と児童：２～５歳児と１年生、支援学級）

【９】絵本の読み聞かせ等（幼児と児童：３～５歳児と３・４年生）

【10】チューリップの球根を植えよう（幼児と児童：年長児と６年生）

【11】昔遊びを楽しもう（幼児と児童：年長児と１年生）

【12】園への訪問（保小中の教職員をつなぐ）

【13】科学あそび～磁石で遊ぼう～（幼児と教職員をつなぐ）

交流を行うにあたって

～計画を立てて、お互いにとって実りある交流にしましょう～

高知県保幼小接続期実践プラン P36～38 参照

保育所・幼稚園等（５歳児） ⇔ 事前・事後の打ち合わせ ⇔ 小学校（１年生）

A

1　子どもの実態から育ってほしい子どもの姿（力）を共有しましょう

- 小学校１年生の生活や実態を知ろう ⇔ 連携 ⇔ 幼児の生活や実態を知ろう

P

2　年間交流計画をもとに交流計画の打ち合わせをしましょう

- ５歳児の年間指導計画をもとに ⇔ 連携 ⇔ 低学年ならば生活科の計画も参考に

3　互いの交流活動の「ねらい」を明確にして内容を考えましょう

- この交流でどのような力を育てたいですか ⇔ 連携 ⇔ この交流でどのような力を育てたいですか

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」も参考に

D

4　その日の交流活動計画をもとに実践しましょう

- ねらいの視点をもって小学生の育ちを捉えましょう ⇔ 連携 ⇔ ねらいの視点をもって幼児のよさを捉えましょう

C

5　交流活動の振り返り（評価）を一緒に行い、次回に生かしましょう

- 子どもを中心に成果や課題を出し合いましょう ⇔ 連携 ⇔ 子どもを中心に成果や課題を出し合いましょう

※他年齢（学年）との交流活動も同じように実践してみましょう

PDCAサイクルの循環

【1】里帰り交流（幼児と児童：年長児と１年生）

実　施　時　期	5月（9：40～10：50）
校園名・学年・人数	◎◎保育所年長児 25 名、◇◇小学校１年生 20 名、○○小学校１年生８名
実　施　場　所	○○保育所
活動のねらい	年長児　・１年生と一緒に、歌ったり身体を動かしたりすることを楽しむ 児　童　・お互いの成長に気付き、異年齢でのふれあいを楽しむ ・友達と協力しながら交流会を楽しむ ・異年齢グループで、仲良く活動することができる
準　備　物	名札、CD、音響機器

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等 ●幼児の活動　○保育者の援助	時間	活動の流れ	小学校 ◆児童の活動　◇教師の支援
※名札の着用			※名札の着用
●１年生の様子を見ることにより、小学校での学習や活動の様子を知る	9：40	①はじめのあいさつ ②プログラム紹介	◇児童が司会・進行やあいさつができるよう、事前指導をしておく ◇大きな声で堂々と発表し、小学校生活への期待感を抱かせるようにする
●自信をもって楽しくダンスを踊る	9：45	③みんなでダンス 「○○○○」	◆年長児と一緒にダンスを楽しむ（身体の向きに配慮）
●1 年生に教えてもらい、一緒に楽しむ（同じ向きで踊る） ●いろいろな友達とジャンケンし、長く連なることを楽しむ ○不安を感じている子どもには、一緒に楽しめるように、保育者が寄り添ったり声かけしたりする	9：55	④歌遊び 「なべなべそこぬけ」 「しろくまのジェンカ」 「かもつれっしゃ」 「てとてとて」	◇児童が園児に説明できるよう、事前指導をしておく ◇事前に決めていたグループで集まれるよう支援する ◆自分から進んで年長児に声をかけ、一緒に楽しむ
	10：20	⑤おにごっこ	
●1 年生の発表を、興味をもって聞く		⑥1 年生の発表 音読	◆日頃の学習の成果を発揮して、元気いっぱい発表する ◆発表の仕方や聴き方のお手本を示す
○発表したい気持ちを大切にし、自分の言葉で気持ちを伝えようとする姿を認める	10：40	⑦振り返り 感想の発表	◆楽しかったことについて理由を付けて発表する ◆発表をしている友達の方を向いて聞く
○小学校生活に期待がもてるように、小学生のよさも伝える	10：50	⑧おわりのあいさつ	◇園児・児童がともに楽しんでいたことを評価する

＜振り返り＞

	年　長　児	児　　童
幼児・児童の様子や感想	【様子】 ・緊張している子も見られたが、それ以上に喜びの気持ちが増している様子だった ・グループ分け後の活動では、昨年度まで仲良く遊んでいた１年生との活動を楽しんでいた ・１年生の歌遊びのお手本を見ながら、にこにこして真似をして楽しんでいた ・楽しかった気持ちを、自分から進んでみんなに伝えようとしていた ・感想を言いたいという子どもが多く、意欲的な姿が見られた 【感想】 ・１年生と一緒に遊べて楽しかった ・１年生の発表をすごいなあと思った ・また一緒に遊びたいと思った	【様子】 ・日々の活動の延長線上の活動だったので、無理なく楽しく活動できていた ・他校の１年生の様子を見て、お互いの学習の様子を知ることができ刺激になっていた ・年長児にお手本を示したり、やさしく教えてあげたりしていた ・お兄さん、お姉さんとしての自覚をもって年長児に接する中で自覚を高め、自信をつけることができた 【感想】 ・年長児と交流できて楽しかった ・みんな大きな声で発表できてよかった ・また一緒に活動したいと思った
評　　価 （全体を通して）	・１年生の進行や説明を聞くことで、意欲的に自分でやってみようとしていた ・よく知っている１年生に教えてもらうこで、安心して一緒に歌遊びを楽しむことができた ・園児が小学生の真似ができるよう、立ち位置などに配慮したことで、１年生の動きを見て真似して動こうとしていた ・振り返りでは、積極的に感想を発表しようとしていた	・事前学習や練習の成果を発揮し、司会進行や説明、教え合いなど、自分の役割をしっかり果たすことができた ・日々の学習活動や音読の練習の成果を発表する場になり、自信につながった ・年長児のお手本になり待たせないようにしようと、活動ごとの切り替えや動きを素早く行うことができた ・ペアやグループ活動では、１年生同士でも協力し合うことができていた
つながるポイント	・事前に教職員で打合せをし、子どもたちがこの時期、興味や関心のあることを出し合っておくことで、子どもたちの馴染みのあるダンスや歌遊びを取り入れることができる ・昨年度の様子から、年長児と１年生の組み合わせを考えたグループ分けにしておく	

〈事後の様子〉●幼保、◆小学校

●交流会後、小学生と一緒に遊んだおにごっこなどを園で楽しむ様子が見られた

●交流会で楽しかったことを、家族にも話していたと保護者より連絡があった

●少しずつだが、話を聞いてから次の行動への切り替えが、早くなってきている

◆懐かしい園で年長児と活動したことを「楽しかった。会えてうれしかった。」と振り返っていた

◆楽しかったことや様子を思い出し、絵や言葉で表現していた

◆交流会での役割を果たすことで、達成感を味わうことができ、様々な活動に積極的に取り組もうという意識が芽生え始めている

【2】プール交流（幼児と児童：年長児と５年生）

実　施　月　日	７月（9：30～10：50）
校園名・学年・人数	○○保育所年長児 30 名、◇◇小学校５年生 30 名
実　施　場　所	◇◇小学校　多目的ホールおよびプール
活動のねらい	年長児　・小学校のプールで５年生とふれ合いながら、水遊びを楽しむ 児　童　・年下の子どもたちを迎え入れ、異年齢での触れ合いを楽しむ ・安全に気をつけて、園児と一緒にプール遊びを楽しむ
準　備　物	（年長児）水着、着替え、タオル （５年生）水着、網、ボール、浮き輪

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等 ●幼児の活動　○保育者の援助	時間	活動の流れ	小学校 ◆児童の活動　◇教師の支援
●多目的ホールで５年生と顔合わせをし、２人組をつくる ○個々の健康状態を把握しておく ○危険がないようあらかじめプール遊びの約束を確認しておく ●５年生を真似ながら、一緒に準備体操をする ●準備体操をすませ、シャワーにかかる	9：30	①　あいさつ ②　活動の確認をする ③　準備体操をする	◇５年生が自分たちで進行できるよう、事前に準備し見守る ◆５年生がリードして２人組をつくる ◆園児のお手本になるように、園児のペースに合わせて準備体操をする
●５年生との２人組で、小プールに入る。２人組で自由に潜ったり泳いだりしてプール遊びを楽しむ ○不安を感じる子どもには、慣れるまで保育者が寄り添う ●５年生の担任の合図で渦づくりや水中玉入れ等のゲームを楽しむ ●５年生と一緒に大プールに入ってみる ○不安を感じる子どもには保育者が寄り添い、無理なく参加する	10：00 10：20	④　小プールでの水遊びを楽しむ ⑤　大プールも経験してみる	◆年長児と一緒に楽しめるよう、安全に気をつけながらゆっくりプールに入り、遊びを楽しむ ◆消極的になっている園児のそばに行き、優しく声を掛ける ◇子ども同士が関わりながら楽しめるよう、渦づくりや水中玉入れ等のゲームを取り入れる ◇５年生自身が自分たちの成長が感じられるよう、園児をリードする姿を認めていく
●感想を言い合う ○感想等、言いたい気持ちを大事にして自信がもてるよう配慮する	10：40 10：50	⑥　感想を発表し合う ⑦　あいさつ	◆園児の頑張りなどを挙げ、感想を伝える ◇小学校生活に期待がもてるよう、園児の楽しんだ姿を認め、入学を楽しみにしていることを伝える

＜振り返り＞

	年　長　児	児　　童
幼児・児童の 様子や感想	【様子】 ・学校のプールで遊べることを楽しみにしている姿があり、当日を迎えた ・５年生とは、６月にも「七夕飾りづくり」で交流をもっており安心して一緒に楽しんでいた ・初めての場所が苦手な子どもがいて、最初は保育者から離れなかったが、慣れると元気に遊び始めた ・５年生の姿を見て、憧れの気持ちをもっていた ・プールに実際に入ることで、広さや深さに気付き、頼りになる５年生の存在を感じることができた 【感想】 ・学校のプールは広くて楽しかった ・５年生の泳ぎはきれいだった ・５年生のように泳げるようになりたい	【様子】 ・園児一人一人に対して、どの児童も優しく接する姿があった ・園児のペアの相手に合わせて、気遣う姿が見られた ・みんな笑顔で、楽しそうだった ・園児に頼りにされることで、５年生なりに自信をもって活動する姿が見られた ・４月には６年生として新１年生をリードするというイメージがもて、最高学年に向けての自覚の芽生えに繋がった 【感想】 ・園児と一緒に遊んで楽しかった ・小さい園児が大きいプールに入るときに不安そうだったので、怖がらないよう声を掛けてゆっくり入った
評　　価 （全体を通して）	・心も体も開放して遊べるプール遊びを子どもたちは満喫していた。また、憧れの学校のプールに入れることを喜んでいた ・５年生の優しい接し方も相まって、就学への期待が高まる取り組みになった ・小学校の先生たちに年長児の様子を知ってもらうことができた。１年生になったときの水遊びの姿に繋がる機会になった	・行事が多い時期ではあったが、園の子どもたちと触れ合うことで気持ちが和んだ表情が見られたことから、５年生たちにとってリフレッシュできる機会となり、生活のメリハリができた ・年長児の様子を、実際の姿を通して見ることができ、小学校生活に繋がる学びがあった
つながる ポイント	・年間を通じて計画的に数回の交流を行うことにより、子ども同士が身近に感じ、自然に接することができる。そのためには互いの計画をすりあわせておく必要がある ・いろいろな学年と交流をもち、複数の教職員が関わることで、小学校に親しみをもち、就学に安心と期待をもつことができる （例：１・２年１日入学やおもちゃ祭り、３・４年ハロウィン、５年プール遊び、６年七夕祭り　等） ・教職員が組織として情報を共有しておくことで、入学後の学校行事においても、子どもを知った上での関わりができる	

【3】秋祭り（幼児と児童：年長児と１年生）

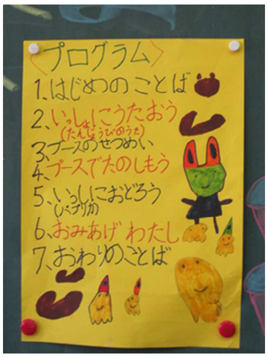
実　施　月　日	10月（9：30～10：30）
校園名・学年・人数	○○保育所年長児（５名）、◇◇小学校１・２年生（12名）
実　施　場　所	◇◇小学校　１年教室
活動のねらい	年長児　・小学校への訪問を楽しみにし、積極的に１年生に関わろうとする ・１年生と交流を深めることで、小学校生活への期待を高める 児　童　・園児に秋祭りを楽しんでもらうよう積極的に声を掛けるとともに、思いやりをもって関わろうとする
準　備　物	保育所（上履き）、小学校（ブースの準備、おみやげ）

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等 ●幼児の活動　○保育者の援助	時間	活動の流れ	小学校 ◆児童の活動　◇教師の支援
●児童の挨拶を受け、年長児も簡単に挨拶をする ○年長児のそばで、挨拶を言うタイミングを合図し、緊張感を和らげるようにする	9：30	①はじめのことば	◆はじめの言葉を言う ◇2年生が大きな声で挨拶ができるよう、楽しい雰囲気をつくる
●円陣になって、児童と一緒に歌をうたう ●児童の説明を聞き遊び方を知る ○全員が遊び方の説明が聞けるよう、座る場所に配慮し、一人一人の表情を確認する ○わからないときは質問していいことを知らせる ●興味をもったブースに行き、遊びを楽しむ ○動けない幼児に寄り添う		②いっしょに歌おう （たんじょうびのうた） ③ブースの説明 ・お店 ・ゲーム ④ブースで楽しもう ・お店 ・ゲーム	◆年長児を誘い一つの円陣になる ◆年長児が分かりやすいように、ゆっくりと説明する ◇年長児に優しく伝えたり、分かりやすく伝えたりしている姿を認め自信につなげる ◆グループでブースを作り、自分のブースで楽しんでもらえるように元気に声を掛ける ◇戸惑ったり困ったりしている年長児がいないか気をつける
●1・２年生と一緒に踊る ○一人一人が小学生と一緒に楽しめるよう保育者も一緒に踊る ●おみやげを受け取りお礼を言う		⑤いっしょに踊ろう ⑥おみやげわたし	◆保育所で経験している踊りを一緒に楽しむ ◆準備しておいたおみやげを一人一人に手渡していく ◇一言声を掛けるように支援する
●秋祭りで楽しかったことを、自分の言葉で一言ずつ言う ○幼児が楽しんでいた姿を児童に知らせ、お礼の気持ちを伝える	10：20	⑦おわりのことば	◆１・２年生の代表が、終わりの言葉を言う ◇温かい雰囲気でお別れすることができるよう、入学への期待を言葉にする

＜振り返り＞

<table>
<tr><th></th><th>年　長　児</th><th>児　　童</th></tr>
<tr><td>幼児・児童の様子や感想</td><td>【様子】
・秋祭りへの期待が大きかったが、小学校へ行くことに緊張感をもっていた
・歓迎のために飾られた部屋でワクワクしながら先生や児童の話を聞く姿があった
・ブースでの遊びの始まりでは戸惑いが見られたが、小学生の声かけと優しい説明で少しずつ慣れ、楽しめるようになった
・たくさん景品とおみやげをいただき、満足感を感じていた

【感想】
・１年生と一緒に踊って楽しかった
・いろいろ遊ぶものがあって楽しかった
・１年生が遊び方を優しく教えてくれて嬉しかった
・楽しかった。また行きたい</td><td>【様子】
・小学生が立てたプログラムにそって、交流会を進めた


・遊び方をゆっくり分かりやすく説明していた

・気持ちがほぐれるように、円になって一緒に歌を歌うことができた

 </td></tr>
<tr><td>評　　価
（全体を通して）</td><td>・緊張感はあったが、一人一人が１・２年生との交流を楽しみ、小学校への不安感より小学校生活への期待を膨らませることができた
・「楽しかった！また行きたい！」という年長児の感想に、今回の秋祭り計画の意義を感じた
・園児が知っていることを小学校と情報交換し取り入れることで、のびのびと活動することができた</td><td>・挨拶や説明など、年長児のお手本になるよう一生懸命伝えようとしていた
・おみやげなどの準備が負担になりすぎないよう、普段の学習との関連を考え、できることを考えていく

・踊りきったとき、達成感のある表情だった</td></tr>
<tr><td>つながる
ポイント</td><td colspan="2">・事前の打合せや事後の振り返りのなかで、それぞれのねらいを確認し、育てたい力を共有しておくことで、教職員の声かけが統一したものになる
・保育所で一緒に経験したことのある踊りを取り入れたことで、思い切り自信をもって活動することができ、その子らしい姿を見ることができる
・交流を深めスムーズな接続になるように、お互いの交流計画を見直しながら、ねらいをもった取組を進めていく
・当日の写真を保護者にも見てもらい、入学への安心につなげる</td></tr>
</table>

【4】保小合同芋ほり（幼児と児童：年長児と１年生）

実　施　月　日	11 月（10：30～11：30）
校園名・学年・人数	○○保育所 12 名、◇◇保育所２名、◎◎保育所２名、□□小学校１年生 15 名
実　施　場　所	小学校芋畑
活動のねらい	年長児　・他園の年長児や１年生と交流を深め、ともに収穫の喜びを感じる 児　童　・園児と一緒に活動することで、年長者としての自覚をもつ ・芋を継続的に育てることを通して、植物の変化や成長の様子に気付くとともに、親しみをもち、適切に世話を続けることができる
準　備　物	軍手、スコップ、芋を入れる袋、タオル、水筒、帽子

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等	時間	活動の流れ	小学校
●幼児の活動　○保育者の援助			◆児童の活動　◇教師の支援
●３園の年長児が○○保育所に集合後、芋畑に出発する ○他園の園児と手をつないでいくようにし、関わりがもてるように配慮する	10：30	①芋畑集合	◇芋掘りができるよう葉を刈り取り、畑のマルチをのけておく ◆園児より先に到着し、芋畑の観察をして、園児の到着を待つ
●到着後、芋畑に並び挨拶をする ・○○保育所代表園児		②保育所代表あいさつ	◆顔が見えやすいところに並び、静かに話を聞く
●小学生とペアになり、芋畑の畝と畝の間の溝に並んでいく ○戸惑っている園児には、１年生にもリードしてもらうように声かけし、そばで見守る		③お手伝いの方の紹介 ④芋掘りの説明	◆芋のつる植えの時のペアを思い出し、ペアだった園児のところに行ってペアをつくる ◇前回のペアが見つからない子どもには声かけをして、ペアをつくる手助けをする
●芋を掘り始める ○小学生にも声かけして一緒に芋掘りができるように仲立ちをする ○芋掘りの様子を見ながら、収穫の喜びが感じられる声かけをしていく ○土が硬く掘りにくそうなときは、少し掘って掘りやすくする		⑤芋掘り	◆園児と一緒に芋を掘り始める ◆できるだけ園児が楽しめるように、一緒に芋を引っ張り、収穫を喜ぶ ◇協力してできるよう、様子を見ながら声かけなどの支援をする
●掘り終わると最初の時のように並び、終わりのあいさつをする	11：30	⑥関係者講評 ⑦1 年生代表あいさつ	◆代表の１年生は自分の言葉で感想を言う ◆全員でお手伝いの方にお礼を言う

＜振り返り＞

<table>
<tr><th></th><th>年　長　児</th><th>児　　童</th></tr>
<tr><td>幼児・児童の
様子や感想</td><td>【様子】
・最初は１年生についてお芋を掘っていたが、夢中になってくるとペアの１年生と離れてしまっていた
・１年生の名前を呼んで再会を喜んでいた

【感想】
・大きいお芋がとれて嬉しかった
・土が硬くてなかなか掘れなかった
・虫がいるのが嬉しかった
・１年生と一緒にお芋掘りができて楽しかった</td><td>【様子】
・園児と協力してできた
・ペアになっている園児のことを気にかけて、お芋の頭が見えてくると園児に教えてあげる姿が見られた
・園児がなかなか掘れずにいると１年生が助けてあげていた

【感想】
・ペアで９個のおいもが掘れてうれしかった
・お芋掘りは宝さがしみたいでわくわくした
・園の子どもがおいもが出てきたときに喜んでくれて嬉しかった</td></tr>
<tr><td>評　　価
（全体を通して）</td><td>・芋掘りに夢中になりペアがバラバラになってしまうときがあったが、１年生が声をかけてくれた
・大きなお芋を一人で掘れないときは、１年生が手伝ってくれ、思いやりや協同的な姿が見られた</td><td>・つる植えの時のペアから、引き続いて同じペアで活動できたので協力や声かけができていた
・年上であることを自覚し、思いやりをもって接する姿が見られ、普段の生活では得られない経験の機会になった</td></tr>
<tr><td>つながる
ポイント</td><td colspan="2">・園児と１年生がペアになり、一緒に１つのお芋を掘り出すことで、協力しながら充実感をもってやり遂げることができ、協同的な育ちにつながる
・ペア組み方を学校側だけで決めるのではなく、子どもたちの様子に詳しい保育所と事前に打ち合わせをすると、子ども理解にもつながる
・ペアの子どもに親しみをもって関わっていけるように、顔写真の掲示物などを作成し、いつも目にすることができるように工夫していく
・芋掘りは中断してしまったが、土の中から虫が出てきて大喜びし、園児と１年生が虫について語っている姿は自然との関わりや、言葉による伝え合いが育つ機会になった。
・想定外のことがあっても、『他園の年長児や１年生と交流を深め』といったねらいがはっきりしていることで、禁止することなく、興味のあることを共有しながら関わりを深めることができる
・芋を育てる→収穫→調理する→食すといった年間を通じた関わりの機会を計画的にもつことで、よりつながりが深まる</td></tr>
</table>

【5】秋祭りの遊びを楽しもう（幼児と児童：年長児と１年生）

実　施　月　日	11 月（9：50～11：50）
校園名・学年・人数	○○保育所年長児 18 名、◇◇小学校１年生 48 名
実　施　場　所	◇◇小学校　多目的ホール・教室
活動のねらい	年長児　・秋の自然のなかで、いろいろな活動を通して１年生との交流を楽しむことで、小学校生活への意欲や期待をもつ
	児　童　・秋の木の実を使った遊びを教えてあげよう ・年長児に自分たちが作ったおもちゃで遊んでもらうことで交流をもち、年下の友達に遊び方を教えることを経験する
準　備　物	（保育所）名札、帽子、水筒　（小学校）秋まつりのおもちゃ、筆記用具、詩

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等	時間	活動の流れ	小学校
●幼児の活動　○保育者の援助			◆児童の活動　◇教師の支援
●顔見知りの友達や、知らない友達もいるが、これからの活動に期待をもつ ○あらかじめ、分けていたチーム別に並ぶように促す	9:50	①　出迎え、あいさつ ②　今日の活動の確認をする	◆並んで元気に出迎えのあいさつをする ◇司会やあいさつなど、事前に決めた役割が自信をもってできるよう促す
●１年生にやり方を教えてもらいながら、秋の木の実を使った遊びを楽しむ ○初めてのこと・場所・人が苦手な幼児の側で見守り、必要に応じて声をかけ、仲の良い友達と一緒のグループで行えるよう配慮する ●１年生の話を素直に聞き、「こう？」「ありがとう」など自然な言葉のやりとりをする ○遊びに夢中になると興奮しがちになることもあるため安全面に留意する ○和式トイレに慣れていない幼児もいるため、一緒に行き、安心できるようにする ●知っている友達や知らない友達とも会話を楽しんだり、ジャンケンをしたりして楽しむ ○トイレから戻ってきたか人数を確認する		③チームに分かれて「秋まつり」の遊びを楽しむ ・どんぐり・まつぼっくりの的入れ ・どんぐりゴム ・くっつきむしを使った魚つり ・どんぐりのやじろべえ ・まつぼっくりのけん玉 ・残り時間は好きなコーナーで遊ぶ ・休み時間 ・トイレ休憩	◆５つのチームの手作り看板を持って、幼児がそこに並べるように各コーナーへ案内する ◆遊び方を説明し、幼児が楽しめるように、一緒になって遊んだり手本を見せたりしながら、コツを教える ◆時間をタイムタイマーで設定し、太鼓の合図で各チームが次のコーナーへ移動することを知らせておく ◆順番で行えるよう声をかける ◇幼児・児童が安全に遊べているか全体を見守る ◆幼児をトイレに案内し、皆が終わるまで待ち、一緒にホールへ戻る ◇幼児･児童の姿を見守りながら、次の活動に向けて声をかける ◆幼児や保育者の側に来て会話やジャンケンを自由に楽しんで過ごし、ふれ合う
●教師の手本を見ながら、動きを真似したり、合図を聞いたりして一緒にやってみる	10:50	④体を動かす ◎太鼓の音に合わせて動く	◆大きく広がり、ぶつからないように気を付けながら動きを楽しむ

〇保育者も一緒になって動き、やり方を覚え、後の感想や体験したことを話す際に共感できるようにする 〇幼児を１人含んだ３人組などのグループのため、１人で心細い幼児がいないか配慮し、不安そうな幼児がいれば、保育者がそばに付き、安心できるようにする		・前、後ろ、スキップ ◎ぐーすけジャンケン ・全体でジャンケン ・少人数でジャンケン ・１年生のクラスへ移動する	◇教師が主になり、動き方を伝えながら期待をもたせる ◆知っている活動を自信をもって行う ◆幼児も含んだ少人数のグループをつくり、自己紹介し合い、ジャンケンをする
●大きな声で教師の後に続き、詩を復唱する ●自分の名前を大きな声で言う 「ぼくの名前は〇〇〇〇〇です」 「わたしの名前は〇〇〇〇です」 ●自分の名前を書く 〇名札を見ながら書けるように促し、一緒に書いていくよう援助する	11:05	⑤授業体験 ・日直合礼 ・「詩を読もう」（復唱） ・「みんなに話そう」 （自己紹介） ・「名前を書こう」 ・記念撮影	◇椅子を持って各班に幼児が数名ずつ座れるように準備する ◇幼児が言いやすい速さで詩を読み、意欲へつなげる ◆幼児の見本となるよう、はっきりと丁寧に詩を復唱していく ◇不安そうな幼児には声をかけ、下書きをし、なぞれるように促す ◆名前の近くに絵を描いたりし、一緒に仕上げる
●〇感謝の気持ちを伝え、また会う事や、一緒に遊ぶことに期待をもつ	11:50	⑥あいさつ、見送り	◇今日の活動を振り返り、次の交流に期待をもたせる

＜振り返り＞

	年　長　児	児　　童
幼児・児童の様子や感想	**【様子】** ・季節を感じながら、素材を使って手作りの遊びができ、とても喜んでいた ・できないことがあっても、小学生が一緒にいることで、何度も挑戦している子どもがいた ・授業体験の自己紹介では、恥ずかしがる子もみられた **【感想】** ・知らない友達もいたけど、一緒に遊べて楽しかった ・魚がいっぱい釣れて楽しかった ・的入れでは 100 点や 200 点もあって、入れることができ楽しかった	**【様子】** ・役割を任せられた子どもたちは積極的であった ・ゲームコーナーにいる児童も「上手やね」「こうやるといいよ」と声をかけ、遊び方を丁寧に教える姿が見られた ・鉛筆や色鉛筆を幼児に持たせながら、そばにいる幼児に優しく声をかける姿が見られた **【感想】** ・久し振りに一緒に遊べて楽しかった ・学校でも早く一緒に遊びたい
評　価 （全体を通して）	・初めての場で、少し緊張をする子もいたが、友達や保育者と一緒に参加することで徐々に慣れ、楽しむことができた ・できないことに繰り返し挑戦する様子も見られ、教師にも褒めてもらえたことが嬉しく、小学校への期待が膨らんだ幼児の姿がたくさん見られた ・ぐーすけジャンケンといった新しい遊びを、園でも継続して行い、遊びが広がるよう援助していきたい	・同級生との関わりとはまた違って、年下の園児に優しく教えてあげるという積極的な姿が見られた ・教室では園児に一つ一つ教えてあげながら、温かい気持ちで関わることができていた ・１年生同士も協力しながら、自分の役割を果たそうと、お手本になろうとしながら意欲的に自分たちの力で進めようとする姿が見られた
つながる ポイント	・始めにしたことのある遊びからスタートすることで、園児は安心して始めることができる。また、新しい遊びも取り入れたことで、小学校への期待感が高まる ・事前に教職員で打合せをしておくことで、遊びの難易度が子どもたちに丁度となり、意欲につながった ・グループで一緒に動きや発声することで、親しみと一体感があり、楽しさも広がる	

【6】おもちゃ祭り～ふれあい交流～（幼児と児童：年長児と１年生）

実　施　月　日	11 月（9：45～10：40）	
校園名・学年・人数	○○保育所年長児（26 名）、□□保育所年長児（２名）、◇◇小学校１年生（60 名）	
実　施　場　所	◇◇小学校　体育館	
活動のねらい	年長児	・交流会を通して、１年生とのふれあいを楽しむ
	児童	・手作りのおもちゃ屋さんで、園児と仲良く遊ぶ ・園児におもちゃ屋さんの遊び方などを丁寧に説明しようとする
準　備　物	年長児	・名札、上履き、景品のおもちゃを持ち帰る袋
	児童	・手作りのおもちゃ（魚つり、けん玉、わなげ、くじ引き、的あて　など）

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等 ●幼児の活動　○保育者の援助	時間	活動の流れ	小学校 ◆児童の活動　◇教師の支援
●あいさつを聞き、今日の活動に期待をもつ ○1 年生の顔が見えるように、園児の座る場所に配慮する	9：45	①　開会のあいさつ	◆児童代表があいさつをする ◇1 年生が自分たちの力で遊び方や方法を丁寧に説明できるよう、事前に打ち合わせをし、当日戸惑う場面があれば支援するようにする（ペアになる、交代の合図等）
●１年生と手を繋いでペアになり、おもちゃ屋さんを見て回る ○初めての場所で不安そうな子どもがいたら、一緒に回ったり、そばで見守ったりする ●様々なお店の中から好きな場所を選び、おもちゃで楽しく遊ぶ ○1 年生に教えてもらいながら楽しく遊ぶ子どもの姿を見守る ○保育者も遊びに参加し、楽しさを共有していく ○遊び方が分からないときは、自分で１年生に聞くことができるよう、そばで見守る	9：50 10：00 10：20	②　おもちゃ屋さんで 遊ぼう ・ペアになろう （1 年生と年長児） ・おもちゃ屋さんを見て回ろう ・おもちゃ屋さんで遊ぼう ・お店、前半チームと後半チーム交代	◆前半のおもちゃ屋さんチームはお店を開くため、それぞれの場所に分かれる ◆後半のおもちゃ屋さんチームは、園児とペアになるよう、園児のそばへいって手をつなぐ ◇園児より、１年生が多いので、全員が園児と組めるよう支援する ◆後半のおもちゃ屋さんチームはお店を開く ◆前半のおもちゃ屋さんチームは、すばやく園児とペアになり、園児に遊びたい所を聞きながら、手をつないで移動する ◇前半と後半で交代し、園児が楽しめるような声かけができるよう見守る
●遊んだおもちゃや１年生からのプレゼント（ゲームの景品）を喜んで受け取る ○自分の言葉で感謝の気持ちを言葉で表すよう促し、保育者も１年生の成長を認め、入学への期待感が膨らむようにしていく	10：40	③　閉会のあいさつ	◆大きな声であいさつをする ◇児童代表に感想も加えながらあいさつができるよう促す。また、園児の楽しんでいた姿や１年生の頑張りを認め、再会を楽しみにできるような雰囲気をつくる

＜振り返り＞

	年　長　児	児　童
幼児・児童の様子や感想	【様子】 ・１年生が開いてくれたおもちゃ屋さんで、楽しく遊ぶ姿が多くみられた ・１年生が遊び方をゆっくり教えてくれ、子どもたちは真剣に聞いていた 【感想】 ・１年生が優しくて嬉しかった ・もっとたくさん遊びたかった ・自分たちも恐竜の卵や車のおもちゃをまねして作りたくなった	【様子】 ・自分たちが作ったおもちゃ屋さんを、班の友だちと協力して頑張ることができた ・あいさつ（代表児童）の児童は、自分の役割を果たそうと一生懸命だった 【感想】 ・年長さんがいっぱいお店に来てくれて嬉しかった ・一緒におもちゃで遊べて、楽しかった ・もっといっぱい遊びたかった
評　価 （全体を通して）	・1 年生には卒園児もおり、久しぶりに会って触れ合うことで、リラックスして参加できた ・いろいろな遊びのコーナーがあり、1 年生が優しく接してくれたおかげで、楽しそうな姿がたくさん見られた ・１年生と楽しく遊ぶことができ、12 月の園でのおみせ屋さんごっこに向けてよい刺激となり、遊びが繋がっていった	・年長さんに優しく接し、仲良く交流することができた ◎年長さんより１年生の人数が多く、１対１のペアではなかったため、園児と関わる時間が少ない１年生がいた ◎お店チームを前半、後半に分けたが、園児の中にはこのおもちゃ（お店）で遊びたいと訴える子がいたため、お店の数が多すぎないよう厳選し、一度に全部の店開きをした方が楽しめたようである
つながるポイント	・おもちゃ屋さんの種類など、教職員同士の事前の打ち合わせのなかで、これまでの経験を生かしたり、新しい経験ができたりするように検討しておく （時間配分、遊びの経験、ペア、あいさつや説明の方法など） ・小学生とペア等になることで、顔見知りとなって親しみがわき、安心して入学することに繋がる ・人数が多いため、全員と関わることができないが、名前シールを貼るなどして名前を呼んで関わることができるようにすると、さらに仲良くなれる ・1 年生は、園児が分かりやすい説明をするにはどのようにすればいいのか、事前に話し合っておくことで、モデルとしての姿を見せることができ、自信にもつながる。また園児はその姿から、憧れをもったり、自分でやってみたいという興味・関心が高まったりし、思考力の芽生えにもつながる	

【７】お祭り集会（幼児と児童：１～５歳児と小学校全児童）

実　施　月　日	11 月（9：50～10：50）
校園名・学年・人数	○○保育所（1～5 歳児）25 名、◇◇小学校全児童（30 名）
実　施　場　所	小学校→　地域の福祉施設○○荘→　保育所
活動のねらい	保育園児・地域の身近な文化に触れ、興味・関心をもつとともに、小学生への憧れの気持ちをもつ 児　　童・友達と協力しながらお神輿を飾り、園児がお祭りの雰囲気を味わえるよう、思いやりをもって関わる ・地域の一員としてお祭りに参加し、地域の人に成長を見てもらう
準　備　物	お祭りで使う太鼓、鳴り物、神輿

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等 ●幼児の活動　○保育者の援助	時間	活動の流れ	小学校 ◆児童の活動　◇教師の支援
●小学校玄関に集合し、３～４歳児は小学生と並んで手をつなぐ ○乳児組は保育者と手をつなぎ、無理のないように参加する	9：50	①始めのあいさつ	◆全員で挨拶をし、お祭りで一緒に歩く園児とペアで手をつないで並ぶ
●5 歳児はお祭りに参加し、小学生と一緒に役割を担って歩く ○交通安全に気を付けながら、小学生と一緒に歩く園児を見守る ●小学生や保育者と一緒に、御神輿を見たり、太鼓の音を楽しんだりしながら参加する ○日ごろできないお祭りの雰囲気を味わい楽しめるよう、保育者も一緒に歩きながら、お祭りの楽しさを声にしていく	10：00	②お祭りへの参加 ・小学生がリードしながら練り歩く	◆御神輿を担ぐ、太鼓を鳴らす、園児と手をつなぐなどの役割に応じて準備する ◇役割ごとに並び、園児をリードできているか確認する ◆安全に気を付けながら、園児と一緒に歩いて行く ◆園児の歩幅に気を付けながら、一緒に声を出し雰囲気を楽しむ ◇交通安全に気を付け、危険がないよう配慮しながら一緒に練り歩く
●施設の人とふれあい、鳴り物を鳴らしたり小学生と一緒に声を掛けたりして、お祭りの雰囲気を味わう ●小学生と手をつないで、園まで帰る ○一緒にお祭りを楽しんだ様子を話し、小学生の成長を喜ぶ ●小学生にお礼を言う（5 歳）	10：20 10：40 10：50	③○○荘に立ち寄り、利用者にも御神輿を見てもらう ④園まで帰る ⑤終わりのあいさつ	◆施設の人たちにも、お祭りを楽しんでいる姿を見てもらい、自分の成長や地域の一員であることの喜びを感じる ◇子どもたちの姿を見てもらえるような位置に配慮し、怪我等がないように見守る ◆楽しかったことなどの感想を述べ、地域の一員としての自覚を高める

＜振り返り＞

<table>
<tr><th></th><th>１歳～5 歳児</th><th>児　　童</th></tr>
<tr><td>幼児・児童の
様子や感想</td><td>【様子】
・地域の人に見守られることで、「わっしょい！」のかけ声を持続しながら練り歩くことができた
・スタートから最後まで、小学生と意欲的に参加することができた
・小学生が祭りに参加する姿を見ることで、『自分もいつかしてみたい』といった憧れの気持ちにつながった
・小学生と交流する機会があることで、就学への期待が膨らみ、就学への緊張の緩和につながった

【感想】
・小学生と一緒にお祭りで歩いて楽しかった
・御神輿を担ぐ小学生が、かっこよかった
・たくさんの人がいて楽しかった</td><td>【様子】
・御神輿を担ぎ、大きな声で「わっしょい！」の掛け声を掛けて練り歩くことができた
・地域の人に励まされながら、楽しい雰囲気の中で意欲的に参加することができた
・園児の中には兄弟もいたことから、一緒に参加できるうれしさを味わうことができた
・年下の子どもへ優しく声をかけるなどして、思いやりをもって行動する姿が多く見られた

【感想】
・園児と一緒に安全に歩くのは、少し難しかったけれど、頼りにされて嬉しかった
・地域の人がたくさんいて、声をかけてもらいながら見てもらえて嬉しかった</td></tr>
<tr><td>評　　価
（全体を通して）</td><td>・小学生が手を引いてくれることで、安心してお祭りに参加することができた
・園とは違った成長する姿を見ることができ、また小学生と関わる良い機会となった</td><td>・園児の歩幅に気をつけながら、お祭りを一緒に楽しみながら参加することができた
・地域の人に園児とともに成長した姿を見てもらうことができ、地域を元気にする取組にもなった</td></tr>
<tr><td>つながる
ポイント</td><td colspan="2">・毎年恒例の行事ではあるが、「昨年と同じように」で実施することなく、教職員同士で事前打ち合わせをし、ねらいをはっきりもつことで、その年の子どもたちの実情に応じた交流ができる
・事前と事後の打合せや振り返りを記録に残しておくことで、次回に向けての引継ぎや共有の資料となる
・地域や保護者に、保育所と小学校の教職員が、ともに子どもたちに関わっている取組を見てもらうことで、保護者の安心にもつながる
・ねらいを意識した計画的な交流が実施できるよう、双方の話し合いや確認のうえ、年間計画を作成し、児童の学びや経験をつないでいく</td></tr>
</table>

【8】お店屋さんにしょうたいしよう（幼児と児童：２～５歳児と１年生と支援学級）

実　施　月　日	11 月（9：30～10：30）
校園名・学年・人数	○○保育所（２～5 歳児）24 名、◇◇小学校１年生・支援学級３年生（７名）
実　施　場　所	○○保育所のホール
活動のねらい	園児・お店屋さんごっこの雰囲気を楽しむ。１年生との交流を楽しむ 児童・園児に楽しんでもらえる内容を自分達で計画・準備することを通して、進級に向けての自覚を育むと同時に、入学後の成長の様子を見てもらう機会にする ・楽しく交流する中で、年下の友達を思いやりながら関わることができる
準　備　物	・お店屋さんの品物　・お店屋さん用の机　・券　・プレゼント　・ピアノ

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等 ●幼児の活動　○保育者の援助	時間	活動の流れ	小学校 ◆児童の活動　◇教師の支援
●ホールに集まって、小学生の自己紹介を静かに聞く ○自己紹介をする	9：30	①　始めのあいさつ ②　今日の活動の確認をする	◇児童が司会・進行できるように事前準備や打合せをしておく ◆自己紹介をする
○期待をもって、お店の紹介やルールを聞く。また、一人一人が買い物券をもらう	9：40	③　お店の紹介	◆お店の準備をする ◇お金ではなく、券で買い物することを園児に説明する
●券をもって買い物を楽しむ（アイス屋・ピザ屋・あめ屋・くじ引き屋）		④　お店屋さん開始 買い物を楽しむ	◆大きな声でお店開きを知らせ売ることを楽しむ
●買い物をしてメダルをかけてもらう ○なかなか買いに行けない子には保育者が寄り添い、安心して楽しめるようにする	10：00	⑤　小学生からメダルのプレゼント	◆買い物をしてくれた園児の名前を呼びながら、プレゼントのメダルをかける ◇5 歳児がどのように買い物をしているかも把握していく
●お店屋さんごっこで、ゲームを楽しむ（魚釣り・ボーリング）	10：05	⑥　お店屋さんごっこの再開 （ゲームを楽しむ）	◆お店屋さんごっこのゲーム開始を知らせる
●楽しかったことの感想を言う ○発表したい気持ちを大切にし、伝えようとする姿を認めていく	10：15	⑦　感想を言い合う	◆お店屋さんをした感想を言う ◇園児の発表を聞き、進級に向けての自覚が高まるよう、１年生の頑張りを評価する
●1 年生と「ジャンケン列車」を楽しむ ○2 歳児はジャンケンのルールがまだ分からないので、保育者が気を付けて見ていく		⑧　「ジャンケン列車」をする	◆１年生が見本を見せてから、全員で楽しむ ◇教師がピアノで伴奏し、楽しい雰囲気をつくる
●全員であいさつをする	10：30	⑨　終わりのあいさつ	◆全員であいさつをする

＜振り返り＞

<table>
<tr><th></th><th>２歳～5 歳児</th><th>児　　童</th></tr>
<tr><td>幼児・児童の
様子や感想</td><td>【様子】
・園児は全員が、お店で買い物することを楽しんでいた
・特に５歳児は、昨年まで一緒に生活していた１年生に会えて嬉しそうだった
・「ジャンケン列車」はよく知っている遊びだったため、小学生とも思い切り楽しむことができた

【感想】
・小学生が優しくしてくれて楽しかった
・たくさん買い物ができて楽しかった
・くじ引きが楽しかった</td><td>【様子】
・大きな声で呼びかける等、自分から積極的に園児に関わろうとする姿が見られた
・内容が、園児も小学生も双方が楽しめる「お店屋さんごっこ」だったことから、心に残る楽しい交流会になり、生き生きと活躍することができた
・園児に対して、優しい声かけ等思いやりをもって接していた

【感想】
・全員が楽しんで買ってくれて嬉しかった
・園のお友達と久しぶりに会い、交流ができて嬉しかったし、楽しかった</td></tr>
<tr><td>評　　価
（全体を通して）</td><td>・久しぶりに１年生に会えてみんな嬉しそうだった
・保育所のホールで行ってくれたことで、２歳も参加でき、楽しい雰囲気を味わうことができた
・買い物もゲームも、１年生が上手にリードしてくれたので、２～5 歳まで楽しむことができた</td><td>・計画準備の段階から見通しを持ち自分の力でやりきることにより、満足感を味わうことができた
・異年齢児と接する中で、自分で自分の成長を感じることができ自信につながった
・園児が喜んでくれたので、達成感を味わい人の役に立っているという自己有用感をもつことができた</td></tr>
<tr><td>つながる
ポイント</td><td colspan="2">・教職員同士で事前打ち合わせをし、ねらいをはっきりもつことで、１年生の事前準備がスムーズにできた。また、ねらいに沿った子どもの姿を捉えようとすることができ、交流会で子どもたちの育ちを見ることができた
・場所は、園児が慣れているところで実施することを、小学校が提案してくれたことで、園全体で交流する機会になった
・園児と小学生の関わりが少しでもできるよう、名札をつけて名前が呼べるようにしておくと親しみができる
・小学生の人数が少ないことで、１年生がお店屋さんを開くことで精一杯にならないよう、買い物とゲームの時間を分けた。そのことで、小学生は優しく教えながら一緒にゲームも楽しむことができた</td></tr>
</table>

【9】絵本の読み聞かせ等（幼児と児童：３～５歳児と３・４年生）

実　施　月　日	12月（9：40～10：40）
校園名・学年・人数	○○保育園　年少・年中・年長児（10名）、□□小学校３・４年生（6名）
実　施　場　所	○○保育園ホール
活動のねらい	年少・年中児　・小学生とのふれあいを楽しむ 年長児　・小学生に絵本を読んでもらったり一緒に体を動かしたりして、ふれあいを楽しみ、入学に向けての期待感をもつ 児童　・園児に分かりやすく伝えたり、読み聞かせをしたりしながら、思いやりの気持ちをもって関わろうとする
準　備　物	絵本、手作りおもちゃ、カメラ

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等 ●幼児の活動　○保育者の援助	時間	活動の流れ	小学校 ◆児童の活動　◇教師の支援
●年少・年中児は、名前を呼ばれたら返事をする。年長児は自分の名前を大きな声で言う ○園児の名前を呼び、小学生に紹介をする	9：40	①　あいさつ	◆児童が司会進行する ◆自己紹介をする ◇４年生を中心に進行できるようにそばで見守りながら、困ったときは援助する
●見たい絵本の所へ移動し、そばで楽しみながら見る ○小学生のそばへ行って見てもいいことを知らせ、保育者も一緒に読み聞かせを聞く ○途中で他の絵本を見たくなった子がいたら、そっと移動できるようにそばで声を掛ける	9：50	②３・４年生が絵本の読み聞かせをする	◆園児のために選んできた絵本を読む（ゆっくり） ◆3 グループ（3 カ所）に分かれ、一人一人順番に読む ◇落ち着いた雰囲気で読み聞かせができるよう、ホールに敷物を準備し、その上に座って読み聞かせをする（3 カ所）
●小学生と一緒に手をつないで園庭に移動する ○一人になっている園児がいないか配慮しながら、年少児の動きに合わせながら移動する ●体をおもいきり動かして、楽しむ ○保育者も一緒に楽しみ、ルールが分からない子がいたら声掛けをする	10：15	③園庭で一緒に「だるまさんがころんだ」を楽しむ ④手作りパクパク人形のプレゼント ⑤記念撮影	◆全員で園庭に移動することを伝える ◆一カ所に集まって「だるまさんがころんだ」のルールを説明する ◆ゆっくり分かりやすい説明を心がけ、園児が楽しめるようにする ◆園児の名前を呼んで、そばに行って手作りパクパク人形を手渡す
●年長児は自分の言葉でお礼を言う ○小学生の頑張りを認め、園児の楽しかった思いを代弁する	10：40	⑥あいさつ	◆一言ずつ感想を伝える ◇楽しんでいた姿を伝え、次回への期待につながるようにする

＜振り返り＞

	年少・年中・年長児	児　　童
幼児・児童の 様子や感想	【様子】 ・絵本は大好きなので、興味津々に見ていた ・「だるまさんがころんだ」は知っている遊びでもあったため、とても盛り上がった ・手作りプレゼントをとても喜んでいた 【感想】 ・パクパク人形が可愛くて嬉しかった ・絵本が面白かった ・「だるまさんがころんだ」がすごく楽しかった。また一緒にやりたい	【様子】 ・選んできた園児が喜びそうな絵本を、園児のペースに合わせて読んでいた ・園児の反応を見ながら、自信をもって読む姿があった ・園児に合わせた言葉がけや手助けを心がけていた ・「だるまさんがころんだ」のルールを丁寧に説明できていた ・笑顔でプレゼントを渡すことができた 【感想】 ・司会をするとき少し緊張した ・読み聞かせを一生懸命聞いてくれたので嬉しかった ・園児が喜んでくれたので、また園に行って交流したい
評　　価 （全体を通して）	・小学生のことは、よく知っているので、恥ずかしがることもなく、とても楽しそうに遊ぶことができた ・小学生が上手に絵本を読んでくれたことで、憧れの気持ちにつながっていた ・「だるまさんがころんだ」が、とても盛り上がり、みんなが楽しく参加できた ・また一緒に遊びたいという気持ちから、年長児は小学校への期待につながったようである	・交流会を自分たちの力で進行する経験をすることで、緊張感や園児への思いやりなど、普段できない経験ができた ・相手意識をもって園児と話をしたり遊んだりすることができた ・国語や図画工作の時間との関連で、事前の準備を進めてきたことから、無理なく準備することができた
つながる ポイント	・事前の打ち合わせをして、園児も知っている好きな遊びをいくつか提案し取り入れたことで、思い切り身体を動かして遊ぶ姿につながった ・保小連携の連絡会を通して、園児・小学生の様子を情報交換していく ・年間を通じて、１年生から６年生と交流する機会を計画しておくと、地域の子どもたちの育ちを知ることにつながり、組織として取り組むことができる	

【10】チューリップの球根を植えよう（幼児と児童：年長児と６年生）

実　施　年　月　日	12月（11：30～12：00）
校園名・学年・人数	認定こども園〇〇園年長児（22名）、◇◇小学校６年生（23名）
実　施　場　所	◇◇小学校の校庭
活動のねらい	年長児：６年生と一緒にチューリップの球根を植え、４月の入園式への関心をもつ 児　童：年長児と球根を植え、名前を知ったり、関わって遊んだりして交流をもつ
準　備　物	年長児　・名札、帽子 保育者　・救急用品、カメラ、手拭きタオル、ティッシュ、携帯電話 小学校　・チューリップの球根・スコップ・ネームプレート

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等	時間	活動の流れ	小学校
●幼児の活動　〇保育者の援助			◆児童の活動　◇教師の援助
●６年生が挨拶するのを聞いたり、学校の先生の話を聞いたりする ●６年生に声をかけてもらい、ペアになる 〇ネームプレートを子ども一人一人に配る	11:30	①　並んで挨拶をする ②　ペアになり、チューリップの球根を６つ取って、花壇へ移動する	◆６年生が挨拶をする ◇ペアで植えることや植える球根の数を全体に伝える ◆年長児に声をかけてペアになり、球根を一緒に６つ取って花壇へ移動する ◆互いのネームプレートを一緒に地面にさす
〇花壇の奥の方から穴を掘ると植えやすいことや、球根の向きに気をつけて植えられるように声をかけていく ●土が固く掘りづらいところは６年生に手伝ってもらい土を掘る ●球根の向きを確認して、穴の中に植える		③　スコップで穴を掘り、球根を植える 	◆「ここを掘るよ」とスコップで穴を掘る位置を示し、声をかけながら穴を掘る ◇球根が植えられるように十分な穴を掘ることや、球根を植えたら土をかけることを伝え、見守っていく
●6年生と一緒に、スコップを片付ける ●遊びたい固定遊具にペアの６年生を誘って遊ぶ 〇全体が見えるよう、保育者同士の立ち位置に気を付け、声を掛け合っていく 〇６年生にお礼を言ったり、「１年生になったらよろしくね」と声をかけたりする	11:45 12:00	④　スコップをカゴに片付ける ⑤　グラウンドへ移動し、一緒に遊ぶ ・ブランコ ・滑り台 ・鬼ごっこ　等 ⑥　挨拶をして園に帰る	◆年長児と一緒に、スコップを片付ける場所までいく ◆年長児と一緒に遊んだり、そばで声をかけたりする ◇安全に遊べるように、声をかけ見守っていく ◆６年生の代表が感想を言う ◇１年生への期待がもてるような話をする

＜振り返り＞

<table>
<tr><th></th><th>年長児</th><th>児童</th></tr>
<tr><td>年長児・児童の様子や感想</td><td>【様子】
・始めは、背が高く自分よりも大きなお兄さんやお姉さんに少し緊張している様子があった
・「何個とるの？」「ここを掘ったらいいの？」とペアの６年生に話しかけ、分からないことは自分から聞いていた
・名前を聞かれると、嬉しそうに自分の名前を伝えていた
・遊びたい遊具に誘い、一緒に遊んでもらうことを楽しんでいる子どもが多かった
【感想】
・６年生と一緒にチューリップを植えるのが楽しかった
・何色のチューリップが咲くか楽しみ</td><td>【様子】
・目線を合わせて、優しく声をかけたり関わったりしている姿が見られた
・「さっき、ここに植えたからね。次は、こっちに植えようね」と年長児に分かるように顔を見て話をしていた
・「私（僕）の名前は～です。お前は？」と聞き、名前を知ろうと話しかけて関わっている姿があった
【感想】
・一緒に球根を植えることができ、とても楽しかった
・入学してくるのが楽しみ</td></tr>
<tr><td>評　価
（全体を通して）</td><td>・年長児の名札を見て、名前を知っているようではあったが、伝え合うまではできていなかったので、最初にペアになったとき、自己紹介の時間を設けてもよかったように思う。また、６年生にもひらがなの名札をつけてもらうと、文字への関心にもつながる
・霜がおりていて、地面が固そうであったので、もう少し早い時期に連絡を取り合い、計画すればよかった</td><td>・普段、なかなか園児と関わることがない児童は、どのように話しかけたらいいのか、どのように関わったらいいのか、とまどう姿が見られたが、名前を知り一緒に遊ぶことで笑顔も見られ、児童にとってもいい機会となったように思う</td></tr>
<tr><td>つながるポイント</td><td colspan="2">・１年間を通した交流において、ペアやグループのメンバーを固定することで、互いに顔や名前を覚え、入学式での入場では、そのペアで入場する。親しみと安心をもって入学式を迎えることができる。また情報交換しながら、ペアの組み合わせを検討する
・１回目の交流の後に、顔写真を小学校と園に掲示し、名前を覚えるなどして、交流の時だけで終わらない工夫をする
・小学校と園の交流会等について、年間計画に位置づけ、計画的・組織的に取り組んでいく。また、５歳児後半の年間計画等にも、就学を見据えたその時期ならではの経験ができるよう、活動計画も見直していく</td></tr>
</table>

【11】昔遊びを楽しもう（幼児と児童：年長児と１年生）

実　施　月　日	12月（9：30〜10：30）
校園名・学年・人数	○○保育園　年長児　25名　担任・加配保育士・園長 ◇◇幼稚園　年長児　10名　担任・園長 □□小学校　１年生　24名　担任・養護教諭
実　施　場　所	□□小学校　体育館
活動のねらい	年長児　・１年生との交流を通して親しみや憧れの気持ちをもつ ・昔遊びの遊び方を知り、興味をもって自分なりに工夫して遊ぶ 児　童　・園児や児童のお互いの成長に気付き、交流を楽しむことができる ・今まで練習をしてきた昔遊びを園児に分かりやすい言葉で教えることができる
準　備　物	あやとり、けん玉、おじゃみ、こま、ケンケンパ、まり、メダルカード、シール、（上ばき）

＜活動の展開＞

保育所・幼稚園等 ●幼児の活動　○保育者の援助	時間	活動の流れ	小学校 ◆児童の活動　◇教師の支援
●１年生の挨拶や発表を通して、これからの活動の様子を知る ●１年生の真似をして挨拶をする ○初めての環境で不安を感じる子どもには、保育者が寄り添い、事前にどのようなことをするのか伝えておく	9：30	①あいさつ	◆交流会全体の司会進行をする ◇学習リーダーの児童が自信をもって司会ができるように事前に確認しておく ◇全体で元気よくあいさつをし、児童、園児ともに気持ちよく活動に入れるようにペアであいさつをし合うようにする
●１年生とグループになって交流することを楽しむ ●１年生の説明を聞く ○ルールや方法が分かりにくい子には、言葉を足しながら伝えるようにする	9：35	②今日の活動の流れを確認する 全体→グループ ・遊びの順番 ・遊び方について ・気を付けること	◆グループの仲間になった園児に分かりやすく、方法やルールを教える
●１年生に教えてもらいながら、昔遊びを楽しむ ●１年生のお手本を見て、やってみたいという気持ちになる ●遊び方を知り、自分なりに繰り返し挑戦してみる	9：40	③それぞれのグループに分かれて、昔遊びコーナーへ行き遊ぶ ・あやとり ・けん玉 ・おじゃみ ・こま　　・まり ・ケンケンパ	◆園児の頑張っているところや良いところを褒める ◇児童や園児が困らないようにそれぞれのグループの様子を観察し、必要に応じて声掛けをする ◆昔遊びのコーナーがすぐに分かるように名前の看板をつけておく ◇全員が全コーナーで遊べるように、タイマーを用意し、コーナー移動の時間が分かるようにしておく
●楽しかったことや、思ったことを自分の言葉で発表する ○感想を求められたら発表したい気持ちを大切にし、自分なりに伝えようとする姿を認めていく	10：10	④感想や振り返りを発表する グループ→全体	◇意欲を高めるためにメダルを用意し、シールが貼れるようにする ◆楽しかったことや友だちの良かったところなど、気付いたことを交流する ◇感想の視点を用意しておく

○1 年生のすごいところやこんなにできるということを伝えて、１年生に憧れの気持ちがもてるようにする	10：20	⑤終わりのあいさつ	◆視点を基に感想を伝える。園児のことを中心に伝える ◇次の交流会でも楽しくみんなで交流できるように意欲づけ（教師から見てよかったところや気付いたところを伝える）を行う

＜振り返り＞

	年　長　児	児　　童
幼児・児童の様子や感想	【様子】 ・小学校に行くことを楽しみにしている子が多かった ・１年生と話をしたり、一緒に遊んだりすることを楽しんでいた ・難しい遊びもあったが、１年生のやっている姿を見て真似をし、初めて経験する遊びに興味をもって自分なりにやってみる姿があった 【感想】 ・１年生と一緒に遊べて楽しかった ・できない遊びもあったけど、１年生と一緒にできて嬉しかった ・おじゃみやケンケンパができて嬉しかった ・学校へ行けることが楽しかった	【様子】 ・当日までも意欲的に準備をすることができ、年長児に楽しんでもらおうという気持ちが見えた ・自分だけが遊ぶのではなく、ペアになった年長児と一緒に楽しく活動することができた ・年長児が分かるように、ゆっくり説明し、一緒に楽しむ姿が見られた 【感想】 ・自分が教えたことで、年長さんができるようになって嬉しかった ・年長さんが昔遊びを上手にできていて、すごいと思った
評　　価 （全体を通して）	・学校へ行くことを楽しみにしていた子も多く、事前にどのようなことをするのか伝えていたことで、安心して参加できていた ・初めての遊びもあったが、１年生と遊ぶことを楽しんでいる姿があり、一緒にやってみようという姿が多く見られた ・１年生がリードして順番に遊びを進めてくれたおかげで、園児も迷うことなく次の活動へと移ることができていた ・興味のある遊びがたくさんあったので、園でもやってみたいという気持ちになっていた	・昨年度と違い、自分たちが年長児のお世話をする初めての交流会を通して、意欲をもって取り組むことができた ・緊張からか、司会の児童の声が小さくなったため、日々の学習から自信をもって堂々と進行ができるように取り組んでいきたい
つながるポイント	・少人数（園児２人、小学生１人）での活動だったので、子ども同士が仲良くなりやすかった ・１年生がリードして遊びを進めることで、１年生への憧れの気持ちをもてた ・遊びを通して小学校の雰囲気を楽しいと感じることができ、来年度への期待がもてた ・学習スタンダードにつながる活動を一緒に行うことで、年長さんに学習の進め方を知ってもらい、入学に向けての意欲向上につなげることができる	

【12】園への訪問（保小中の教職員をつなぐ）

実　施　月　日	年間を通じて	
校園名・学年・人数	保育所の主に５歳児の姿を参観する	
実　施　場　所	〇〇保育所	
活動のねらい	保育者	・小中学校教職員へ、保育で大切にしていることや、園児の遊びや生活の中での育ちや学びについて説明し理解を促す
	教職員	・保育所の教育・保育について理解するとともに、園児の遊びや生活の場面を見ることで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる育ちを捉える
準　備　物	全体的な計画、年間・月間（週案）等の計画、５歳児後半の年間指導計画 付箋紙、ペン、模造紙	

＜活動の展開＞

〇保育者	時間	活動の流れ	◇小中学校教職員
〇管理職による説明 ・園で大事にしていることや園児の姿を見る視点、保育の見方について伝える	9：10	①事前打ち合わせ ・日程について ・今日の保育について	◇保育参観に向け説明を受け、参観のねらいを確認する
〇クラスを案内し、園児の姿から、経験していることや楽しんでいることなど、見方を解説する（管理職） 〇保育者（担任）は、普段通りの保育を心がける	9：30 10：15	②保育の参観 ・発達の違いなどを知るため、全クラスの保育を参観する ・５歳児は就学を見据えて、じっくりと参観する時間をとる	◇園児の姿から、どのようなことを経験しているのか、何を楽しんでいるのかなど、視点をもって参観をする ◇園児の生活や遊びの妨げにならないよう配慮しながら参観をする ◇園児が声を掛けてきたときは、目線を同じにして、話しやすい雰囲気で関わる
〇園児が経験していたことや楽しんでいたことを付箋に書いてもらい、出し合った付箋をカテゴリー分けしていく 〇「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、カテゴリー分けをした姿がどのような力につながっているかを確かめる	10：20 11：00	③振り返り ・付箋、ペン、模造紙を準備する ④閉会	◇どのようなことを経験しているのか、何を楽しんでいるのかなどを付箋に書き出す ◇順番に付箋に書いたことを伝え模造紙に貼り出していく ◇小中学校との環境の相違点なども出し合い、互いに工夫できる点を確認する

＜振り返り＞

<table>
<tr><th></th><th>保育者</th><th>小中学校　教職員</th></tr>
<tr><td>評　　価
（全体を通して）</td><td>・保育参観の前に事前打ち合わせをしておくことで、視点をもって子どもの姿を見てもらうことができた

・振り返りをすることで、参観者の多様な見方や捉え方に気付くことができた

・小中学校の教職員を知ることができ、交流会等でもこれまで以上に連携をとりやすくなってきている

・就学前から多くの経験（学び）をして小学校へ入学できるようにするためには、教育のスタートである保育所の役割が重要。その大切さを、再度確認することができた</td><td>・子どもの様子について、悩みや課題を共有できる機会となり、関わり方や環境などを検討することができた

・遊びの中の経験が、小学校以降の学習につながっていることを実感することができた

・園児が自分の力でできることがたくさんあることに気付くことができた

・園児が小学校に入学するときに、大きなストレスを抱えないようにするにはどうすればいいのか、考える機会になった

・事前事後の話し合いの時間をもつことで、保育者の見方や考え方に触れることができた</td></tr>
<tr><td>つながる
ポイント</td><td colspan="2">・事前と事後の打合せや振り返りを記録に残しておくことで、次回に向けての引継ぎや共有の資料となる

・ねらいを意識した保育参観にすることで、限られた時間を有効に活用することができ、今後の交流会のねらいを考えるヒントにもなる</td></tr>
</table>

【13】科学あそび～磁石で遊ぼう～（幼児と教職員をつなぐ）

実施月日	３月（10：00～11：00）
校園名・学年人数	〇〇幼稚園年長児（30 名)、□□小学校教頭（１名）
実施場所	〇〇幼稚園　年長児クラス
活動のねらい	年長児　・自分なりによく考えてみる ・小学校の学習活動に興味や関心をもつ
準備物	ペットボトル、磁石各種、砂鉄、テーブル、椅子

〈活動の展開〉

時間	活動の流れ	〇教師の支援　◎保育者の支援
10:00	〇□□小学校教頭先生と挨拶 〇様々な科学の不思議を見る ・ペットボトル内の魚が浮き始める ・　　　〃　　　　沈み始める ・友達がやっているところを見て、興味をもつ	〇白衣を着て、科学者と出会ったような雰囲気を感じられるようにする 〇魔法と科学を結び付け、これからの活動に期待をもたせる 〇園児にもやってみせることで、全員が自分でも魔法や化学が使えるような期待感をふくらませる
10:10 10:15	〇磁石と出会う ・教師が触れる様子をわくわくしながら見る 〇磁石に触れる ・一人に１セットの磁石を受け取り、自由に触れていく （棒磁石・丸形磁石・U 型磁石） ・磁石がくっつく物や場所をさがす	〇実施の磁石を見せ、その特性などを、想像できるように促す 〇自分が思うままに試しながら、触れていけるようにする 〇◎幼児が感じたことや気付いたことに共感し、全体に発信できるよう促す 〇◎くっつきそうな対象を自分なりに考えて試し、自分から行動していけるような時間や環境を整えておく
10:30	〇砂鉄で遊ぶ ・砂鉄を受け取り、磁力によってできる模様を、自分なりに試しながら楽しむ	〇砂鉄の扱いについて伝え、注意を促す 〇◎作った模様を、周囲と共感し合いながら、いろいろと試していけるように声かけし、意欲へつなげる 〇楽しい発見や、盛り上がっている様子を全体に伝え広げる
10:45 10:55 11:00	〇片付け 〇教師の前に集まる 〇教頭先生と挨拶をする ・ハイタッチしてお別れをする	〇◎方法や手順を伝え、自分でできるよう促す 〇◎自分の発見や行動したことの価値を感じられるように、言葉で意味づける 〇再会を約束し、就学への期待感が膨らむようにする

〈振り返り〉

年長児の様子	・科学者と出会った気分に浸り、小学校には、でんじろう先生のような先生がいるというイメージをもち、科学への興味が高まった ・自分なりに様々な方向から、考えたり試したりすることが楽しくて、次々と取り組んでいくうちに、予定時間を大幅に過ぎていたが、集中が途切れることはなかった ・自分の工夫や発見を、小学校教師に認めてもらえることが嬉しくて、繰り返し言葉や行動で発信し、自分でもできるという自信につながっていた ・友達と一緒に工夫したり、仲間とつなげてみるとどうなるかを考えたりしていくことが楽しかったようだった ・小学校教師から投げかけられることへ敏感に反応し、その都度楽しさや喜びの声を上げていた ・小学校教師と関わる楽しさをたっぷりと味わい、就学することが、とても楽しみになっていた
評　価	・教頭先生と出会い、いつもの生活と違う雰囲気によって、幼児の興味が高まったと考える。白衣姿も大きな効果につながっていた ・磁石で遊ぶという、自分でいろいろと考えながら取り組んでいく活動であったため、幼児が自然に参加することができた ・自分が見つけた楽しさや不思議を、教頭先生にしっかり認めてもらえたことで、小学校でも自分らしく振舞っていける自信につながったと考える ・「もっと楽しくなるために」という日常的に試行工夫を繰り返す幼児期の特性が、活動の中で生かされる内容であった ・幼児の集中の持続時間を考え、長くても 60 分以内で終了する予定であったが、実際は 90 分間絶え間なく集中が続いた。それは、好きなことを見つけて没頭するという園生活のスタイルが、そのまま活動につながったからではないかと考える。幼児にとっては、90 分活動したというよりは、自分なりにたっぷりと遊べたという感覚であったようで、「まだもっと続けてやりたい」としきりに訴えていた ・教頭先生は、幼児の活動に対する反応や興味の示し方、集中力などに触れ年長児の今の成長を感じながら、楽しく科学遊びを進められた ・園側も小学校側も、発達や成長を踏まえた接続の在り方を、この共通体験の中から考えるきっかけとなった

〈事後の様子〉

●年長児は、「学校ごっこ」と称して、教頭先生をまねて遊ぶ様子が見られている

●園用の磁石をもって、砂場で砂鉄を探す姿がある

●何かを考えたり決めたりするとき、自分たちで机を出し、自然に学校の班学習のように頭を突き合わせている姿がある

●クラスで一つの目的をもち、それぞれが得意なことを分担（担当）し、認め合いお互いの力を生かしながら、活動を進めている様子がある（協同性）

〈つながるポイント〉

・これまでの園生活の中で、「もっと楽しくなるために」という経験を豊かに積み重ね、試したり工夫したりしようとする幼児期の特性が活動の中で生かされるよう、内容を検討しておく

★交流活動例の「活動のねらい：年長児」に記載しています❶～❿は、この交流活動を通して育っているであろう 10 の姿を参考に記載しています。全員が達成しなければならない到達目標ではありません。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

❶　健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

❷　自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

❸　協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

❹　道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

❺　社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

❻　思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

❼　自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。

❽　数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

❾　言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

❿　豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

※「園生活」等「園」と表記しているところは、保育所保育指針や幼稚園教育要領等では「保育所」「幼稚園」「幼保連携型認定こども園」と記されています。